

平成30年度 学校評価総括表

教育目標	日本国憲法、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、人権を尊重する民主的な社会の形成者として、豊かな人間性と創造性を身に付けた生徒の育成を目指す。					総合評価	
運営方針	本校の教育は、「和敬・創造・錬磨」の校訓の精神に基づき、生徒の学ぶ意欲を高め、魅力と活力のある学校作りのために、教職員が一丸となって教育活動に取り組む。 「和敬」…個人の尊厳を重んじ、礼節を尊び、常に和敬の心をもって自他の向上に努める人間を育てる。 「創造」…学業に励み、真理を希求し、勤労と責任を重んじ、日々たゆまず努力し、新たな文化の創造に努める人間を育てる。 「錬磨」…常に心身の錬磨に励み、高い知性と健全な身体を培い、強固な意志とたくましい実践力をもった人間を育てる。					B	
目指す生徒像	明るく、素直で、チャレンジ精神にあふれる生徒						
重点目標	確かな学力の育成。豊かな人間性の育成。たくましい心身の育成。						
平成29年度の成果と課題	本年度重点目標	具体的方策			自己評価結果		
学習指導において、観点別評価により生徒の学力を分析的に把握し、授業改善に向けた指針を得ることができた。得られた改善点を修正し、指導と評価の一体化をより図っていく。登校指導や地域との交流を通して、社会の一員としての自覚が芽生え、挨拶や通学途上でのマナーの向上が見られた。生徒の主体的な参加をさらに促していきたい。	【1】 生徒の主体的な活動を引き出し、意欲と活力にあふれた高校生活を送らせる。 【2】 基礎的な知識・技能の定着とともに、言語活動の充実により、思考力・判断力・表現力を育成する。 【3】 人権尊重の精神を尊重し、他者を思いやる心を身に付けさせるとともに、規範意識を向上させ、社会の一員としての自覚を促す。 【4】 たくましい心身の育成のため、運動に主体的に取り組む姿勢と自らの健康の保持増進への実践力を養う。	① 低学年から計画的な進路指導に取り組む。	A	B			
		② 委員会活動の活性化に努める。	B				
		③ 学校行事等において、生徒の主体的な活動を推進する。	B				
		① 授業の改善に取り組む。	B		B		
② 評価の観点を示し、学習の目標を生徒に明確にする。	A						
③ ンラパスを活用し、計画的な学習の仕方を指導する。	B						
① 登下校時の通学マナーや制服の着こなしの指導に取り組む。	A	B					
② 人権集会等の活動への生徒の主体的な取り組みを支える。	B						
③ 生徒の地域活動への参加を推進する。	B						
① 運動に主体的に取り組む姿勢と自らの健康の保持増進への実践力を養う。	B		B				
② 生徒会と連携し、体育大会等の行事を推進する。	B						
③ スクールカウンセラーを活用し、生徒の悩みに対応する。	A						
	具体的目標 (評価小目標)	具体的方策	評価指標	自己評価結果	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価
学習指導	観点別評価の実施と、思考力・判断力・表現力を高めるための授業改善	観点別評価を実施し、指導と評価の一体化を図る。また、新テストに対応するため、学力の三要素を踏まえた授業の展開を目指す。	○ 各科目ごとに観点別評価規準表を作成する。 ○ 生徒アンケートの「授業に対する充実感」で、肯定的な意見8割を目指す。	B	観点別評価に伴い、各教科で授業改善・工夫等の取組が進んでいると思われる。アンケート結果(1年:57.2% 2年:58.7% 3年:60.5% 全体:58.8%)から更に授業改善・工夫等を行う必要がある。	引き続き観点別評価の推進に、各教科で取り組める体制を整えていきたい。校務支援システムの導入に伴い、成績評価がスムーズに進むように努めたい。	学校評議員からの評価はBとする。来年はAに近づけるように取り組んでほしい。数値による評価はわかりやすくよい。肯定的意見8割を目指す。挨拶の習慣は自然とついているようで、保護者としてありがたい。学校でしか学べないもの、子供の変化、進路など先生と関わりながら、学校と家庭を連携しながら子供の成長を見守ってほしい。
生徒指導	生徒の社会的マナーの向上	学校生活及び通学時において、制服の着こなし指導を徹底する。また、教職員からの積極的な声かけや、生徒会等と連携を行い、自発的に挨拶ができる生徒を育てる。	○ 生徒アンケートの、校内等で「服装を正している」と答えた生徒が8割以上である。 ○ 自発的に挨拶をしたと答えた生徒が8割以上である。	B	制服を改造したり、大幅に身だしなみが悪い生徒は見られなかったように思う。ただ、身だしなみの細かな部分や、自発的な挨拶に関しては不十分であるように感じた。	継続的に生徒への啓発、声かけをして、生徒の規範意識の向上に努める。また、教員側からの積極的な声かけ等、先生方の協力も仰いでいきたい。	学校でしか学べないもの、子供の変化、進路など先生と関わりながら、学校と家庭を連携しながら子供の成長を見守ってほしい。いじめに関してはいじめがいじめになっている事例もあり、決して重大事態にならないよう、小さなことからなくしていく。
進路指導	個々が希望する進路の実現	1年次から自己発見・進路探究の学習活動を通して、具体的な進路目標を設定させることにより、主体的に学習に取り組ませ、進路実現に向けた努力を促す。	○ 進路に関する情報ペーパーを年間3回以上発行し、進路についての関心を高める。 ○ 生徒アンケートの「進路に関して十分情報提供されている」の項目で、肯定的な意見8割を目指す。	B	今年度は、進路行事の見直しを図り、変革途中である。生徒が主体的に進路目標を設定し、実現に向けて努力するために、さらに各学年の行事を見直していく。また、情報提供の質と量を考える必要がある。	進路に関する情報ペーパーを柔軟に発行し、生徒が必要とする情報の提供を行う。適切な学年、学期に進路行事が行えるように、事後アンケート等で実施結果の分析を行う。	
総務	式・式典の円滑な運営と広報活動の充実	各学期の始業式・終業式、入学式・卒業式やオープンキャンパスの円滑な運営を、各分掌、学年と連携して行う。またホームページ等による広報活動の充実を目指す。	○ オープンキャンパスにおける参加者対象アンケートで、「大変よかった」と回答した生徒・保護者等の割合が昨年度(81%)を上回る。	B	オープンキャンパスで「大変よかった」と回答した割合が79%と、昨年を上回ることができなかったが、内容的には満足できるものであった。	オープンキャンパスについては、今年度の流れを各分掌等に継続をお願いしていく。現在新ホームページの作成に向けて、取り組んでいるところである。	

	具体的目標 (評価小目標)	具体的方策	評価指標	自己 評価 結果	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価
渉外環境	美化委員会活動の活性化	生徒会美化委員による、月1回の通学路清掃及び11月の校門前の落葉清掃により自主性を育てるとともに、環境美化に対する参加意識を高める。	○ 美化委員会を年3回開催する。通学路清掃への参加徹底を図り10割を目指すとともに、事後アンケートを実施して積極的な参加者率8割以上を目指す。	B	美化委員、美化係の活動に対する意識は非常にいいと思う。ただ、生徒一人一人の美化に対する意識が乏しいように思う。	なぜこのような美化活動をすることが大切なのかといった、内面的な指導が必要と思う。日頃からの地道な指導が大切と思う。	避難訓練に関して、今後は、高校生が避難所運営の一員となる教育を視野に入れられないか、といった意見があった。
人権教育	自主活動の充実	ハートフルクラブと生徒会人権委員会を中心に、西和養護学校との交流や人権集会等の活動に主体的に取り組むことで、人権教育活動の推進役として生徒全体の人権意識の向上に努める。	○ 人権集会の活動への参加生徒を全校生徒の3割以上をめざす。 ○ スクールカウンセラーの来校日についての広報や連絡を確実に進行。	B	全体として生徒に関連する行事については例年通りの活動を継続することができたのでよかった。ただ、ハートフルクラブの部員減が深刻であるし、人権委員会への委員の取組やその他一般生徒の積極性は今ひとつだったと思う。	楽しみながら仲間作りができたり、人権の学習にもなるようなイベント的なコンテンツをハートフルクラブや人権委員会の活動に取り入れていきたい。	
保健体育	集団行動の意義を理解し、実践するとともに、健康・安全に留意し、行動することができる生徒の育成	学校生活や社会生活において集団で安全に、また、秩序正しく主体的に行動できるよう指導する。また、体育大会の計画、運営、実施に生徒が主体的に関わるよう働きかける。	○ 体育大会の事後アンケートを実施する。その中で、計画、運営、実施のいずれかに、主体的に活動できたと回答する生徒9割以上を目指す。	B	体育大会においては、熱中症のこともあり、実施時期や、予備日の設定を含めて再考する必要がある。	熱中症のことも考え、体育大会は実施時期を6月に変更。予備日での実施を柔軟に設定する。	
文化図書	文化祭や文化行事への積極的な参加	文化祭における展示・発表等の内容の充実を図る。 百人一首カルタ大会や朝の読書、図書館文化講座などの行事にも積極的な姿勢で参加するように働きかける。	○ 文化祭についての事後アンケート(職員・生徒)で、肯定的な意見8割を目指す。 ○ 文化的行事に積極的に参加し、効果がある活動と感じた生徒8割を目指す。	B	文化祭や文化行事への積極的な参加を目標としたが十分な働きかけができなかった。また、読書意欲を駆り立てる方策がとれなかった。	文化祭における展示・発表の内容の充実を図るため様々な情報を提供する。読書感想文コンクールへの応募を斡旋する。	
特別活動	生徒の自主的な活動の活性化	生徒会主催行事や、文化図書部との共催行事である文化祭を、生徒が主体的に活動・運営ができるように指導する。	○ 毎週定期的に生徒会役員打合会をもつ。募金活動、周辺地域や小中学校との交流や協働行事、県主催行事について、年10回以上の参加を目指す。 ○ 生徒会主催行事や共催行事についてのアンケートにおいて、主体的に参加できた生徒8割以上を目指す。	B	毎週定期的に会合をもつことができた。地域や県との協働行事、県主催行事への年10回以上の参加は、天候により参加できなかったものもあるが、達成できなかった。文化祭の生徒会企画の生徒アンケートにおいては、「たいへん良い」「よい」が8割以上あった。生徒会主催行事や文化図書部との共催行事である文化祭において、準備不足等の課題はあったが、主体的に活動・運営できた。	生徒会主催行事と他団体からの依頼を精査し、役員への負担が大きくなりすぎないように調整を図る。	
第1学年	基本的な生活習慣の確立	時間の厳守、挨拶の励行、集団生活での規律の厳守などを働きかけ、安定した高校生活を継続できるようきめ細かい指導を行う。	○ 各学期に1回以上の学年集会を開くとともに、HR活動を通して規範意識の向上に努める。 ○ 遅刻回数を前年度よりも1割減少させる。	B	時間を守ることや、集団生活での規律については概ねできたと思われるが、挨拶の励行についてはあまりできていない。遅刻は1・2学期はさほど多くはないが、3学期になって増加しつつある。	3学期当初に各クラスで、挨拶の励行やきちんとした服装で学校生活や特に授業を受けるよう、改めて指導した。今後も生徒たちの意識の向上に努めていきたい。	
第2学年	規範意識の高揚と規律正しい学校生活の確立	望ましい生活習慣を定着させ、学習を中心とした規律ある生活をさせることにより、自己指導能力の育成を図る。また規範意識の向上を図り、社会的マナーを身に付けさせ、健全で活力ある学校生活を送らせる。	○ 学年で集まる機会ごとに規範意識を高める注意喚起を行う。 ○ 生徒アンケートにおける規範意識に関する項目の肯定的意見の平均が8割を目指す。	B	2年生になり、遅刻や欠席の多い生徒が増えたが、全体的には長欠傾向の生徒は少ない。学習習慣が定着していない生徒が多く、欠点保有者も増加した。学年で集まる機会が多かったため、そのたび様々な注意喚起を行った。	各自の進路実現に向けて、学習時間を十分に確保した生活習慣の確立を目指すよう指導する。	
第3学年	主体的に学習に取り組む自律的な生徒を育成する。最終学年として、他の模範となるような責任ある行動をとることができる生徒を育成する。	進路目標の実現に向けて、主体的に学習に取り組む自律的な生徒を育成する。また、最終学年として、他学年の模範となるような責任ある行動をとることができる生徒を育成する。	○ 授業やコーナス、学年集会等で主体的に学ぶことの意義を説き、自主的な学習態度を養成する。進路については、9割以上の生徒が第一志望の進路を実現することを目指す。 ○ 学期に1回以上は学年集会をもち、規範意識の向上について説明する。	B	第一志望の進路目標の実現に向けて、真摯に学習に取り組む生徒が多かった。しかし、十分に学習に取り組めず、成績が不振である生徒もいた。現時点で、第一志望の進路目標の実現は約7割の生徒が実現している。規範意識の向上に努めたが、不徹底な部分もあった。	進路が未定の生徒には、今後きめ細かい進路指導を行っていく。	

(評価基準 A 90%以上 B 70%以上 C 50%以上 D 50%以下)